

☆☆☆ 朝 礼 講 話 ☆☆☆

4月27日(月)

『「いけない」とわかっていることをすると・・・』

講話 教務主任 黒岩 靖



今からずっと以前の、中学3年を担任していた時の事でした。卒業を間近にひかえた2月末のまだまだ寒い日の夕方、あるお店から学校へ電話がかかってきました。先生を指名しての電話だったのですが、町内で文房具等を含めた雑貨品を扱っている店で時々その前を車で通りかかるぐらいで、特に何の知識も関わりもないお店でした。『何事だろう、学年で何か注文した物でもあったかな?』などと思いつつ電話に出てみると、受話器から聞こえてきた話の内容は、教員になってまだ間もない私にとっては、とても信じられない驚きのものでした。



簡単に言うと、「何点かの文房具を万引きしようとした女子中学生を、事務室で事情を聞いている。その後、『連絡を取るのには、警察がいいか、家庭がいいか、学校がいいか』と尋ねたところ、『学校がいい』と応えたので、担任の先生に連絡をさせていただいた。万引きをしたのは、今回が初めてではないと思われる。とにかく、引き取りに来て欲しい」というものだった。

生徒を迎えに行く時の私の気持ちは、とてもとても重いものでした。「卒業式が近づいた今になって・・・」という思いと、「万引きは今回だけではないと思われる」という店員さんの言葉が、頭の中でぐるぐると回っていました。それに何よりショックだったのは、その生徒が、1学期の学級委員も務めたことのある、明るく活発な生徒だったことです。

学校へ戻ってきてから、その女子生徒は、涙をこぼしながら次のような話をしてくれました。

- ・ 初めて万引きをしたのは、去年の夏休みに入って間もない日だったこと。
- ・ その時は、同じ部活動の先輩と一緒に、その先輩に誘われて万引きをしてしまったこと。
- ・ その時以来、今回で万引きをしたのは7～8回にのぼるが、そのお店以外ではしたことがないということ。
- ・ 盗った物のほとんどは、消しゴムやシャープペンシルの芯などの文房具であること。
- ・ 万引きをしたのは、買うためのお金がなかったからではないこと 等。

生徒の話の中で、印象に残っていることが二つあります。一つは、初めて盗みしようとした時、また、万引きをし始めて2～3回目までは、品物に手をかける瞬間、心がドキドキして手が震え、とても怖かった。しかし、回数を重

ねるうちに、その感覚が薄れていったということ。もう一つは、怖いという感覚は薄れていっても、自分が悪いことをしているという思いは心のどこかにあって、そのことがあってか、いつも気持ちがすっきりしなかった。何かがひっかかっているような、のしかかっているような、いつもそんな暗い気持ちだったということ。そして、生徒は、その後、「今日見つけたことは、自分にとってとてもよかったと思う。これで、万引きという悪いことから抜け出せたし、引っかかっていたものが取り払われて、何だかすっきりとした気持ちになることができた」というような意味のことを語ってくれました。

人はだれでも、正しく行動し、生きることを良しとするものです。ところが、明らかにそれに反するような悪いことをしようとした場合、きっと、それを止めさせようとする自分の中の規制のようなものが働くのです。初めて盗みをした時の女子生徒に生じた、『どきどきした感覚』や『手の震え』は、きっとそういうものだったのでしょう。また、人が過ちや後ろめたさのようなものを引きずっていると、心が晴れることはありません。人が真っ直ぐに成長していくためには、陰りのない心、澄み切った青空のような心が、大切なのです。

今日の天気のように晴れわたった青空を見ると、いつもそのことを思い出します。



運動会応援合戦準備



今年から、運動会を5月に行うことになりました。そこで、これまでは夏休み中に行っていた応援合戦の準備を、現在6年生が大急ぎで進めています。赤・白それぞれのチームごとに、運動会が盛り上がるように意見を出し合いながら振り付けを考えています。



5月になると全校での運動会練習が始まります。そこでは、きっと6年生がしっかりリードして、すばらしい運動会を創り上げてくれるものと楽しみにしています。